

# イタリア巡礼とルルドへの旅 ③

## ロレート Loreto 「聖なる家の巡礼聖堂」

## 聖母マリアを祀る聖堂

訪問：2016年5月20日（金）

イエスがマリア、ヨセフとともにナザレで暮らした家「サンタ・カーザ（聖なる家）」の壁で作られた聖堂。「ロレータの聖母」と呼ばれる黒いマリアの像があり、世界中から巡礼者が集まる。



聖堂



黒いマリア

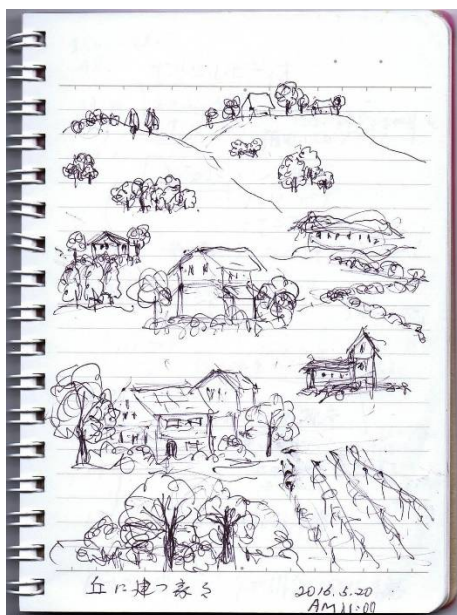
入口を入り奥に進むと、聖家族の家の壁で出来た聖堂があり、ロレートの聖母像（黒いマリア）が祀られている。

「ロレートの聖なる家は、聖母に捧げられたすべての巡礼聖堂の中で世界的に第一のものであり、キリスト教における聖母マリアの、まことの中心地であります。」（ヨハネ・パウロ二世）

前日のサンジョバンニ・ロトンドから 330 k m。ゆるやかな緑の草原、ぶどう畑、村の家々、美しい景色が広がる。バスはカーブした狭い坂道を、満員の乗客を乗せウンウンうなるように上り、やっと丘の上の聖堂に到着。



丘の上に建つロレート聖堂



車窓の風景



向こうに見えるのはアドリア海

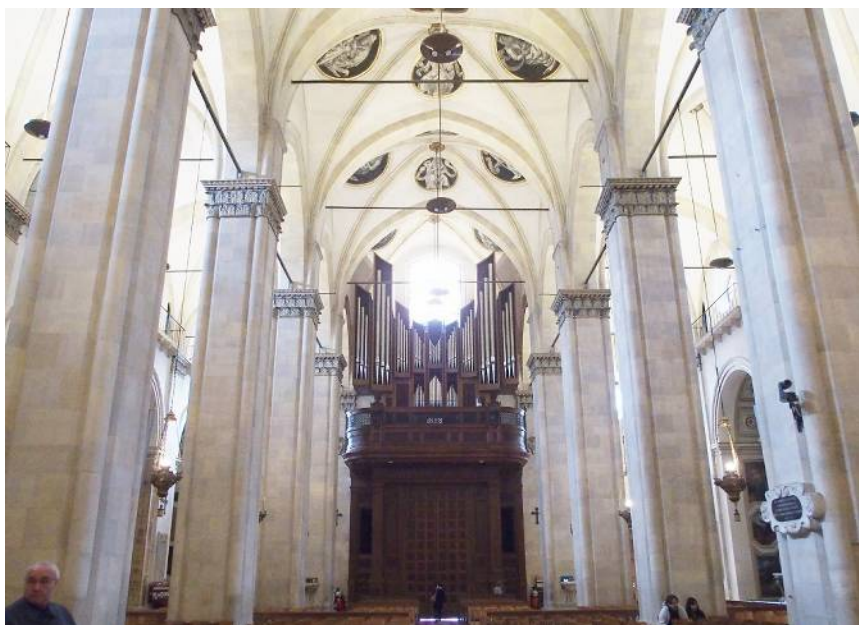


ロレート巡礼聖堂前広場





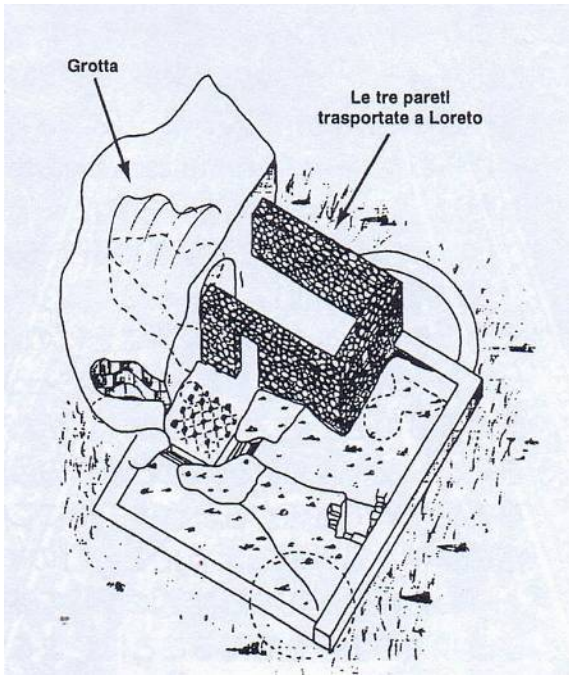
正面



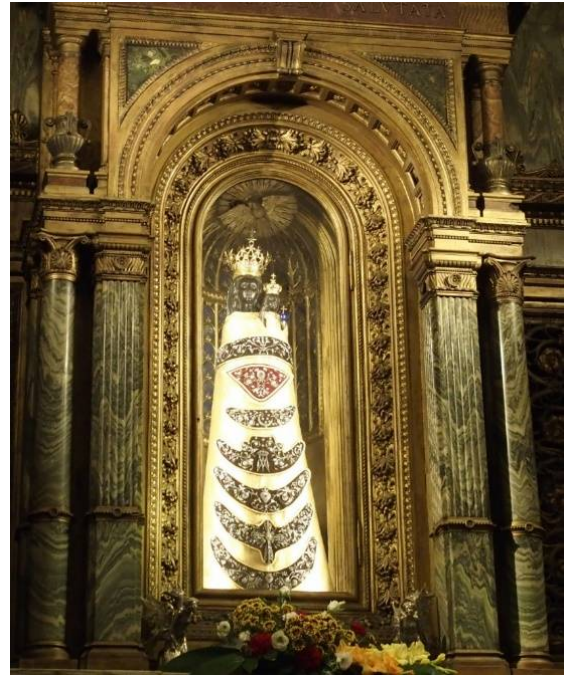
パイプオルガン



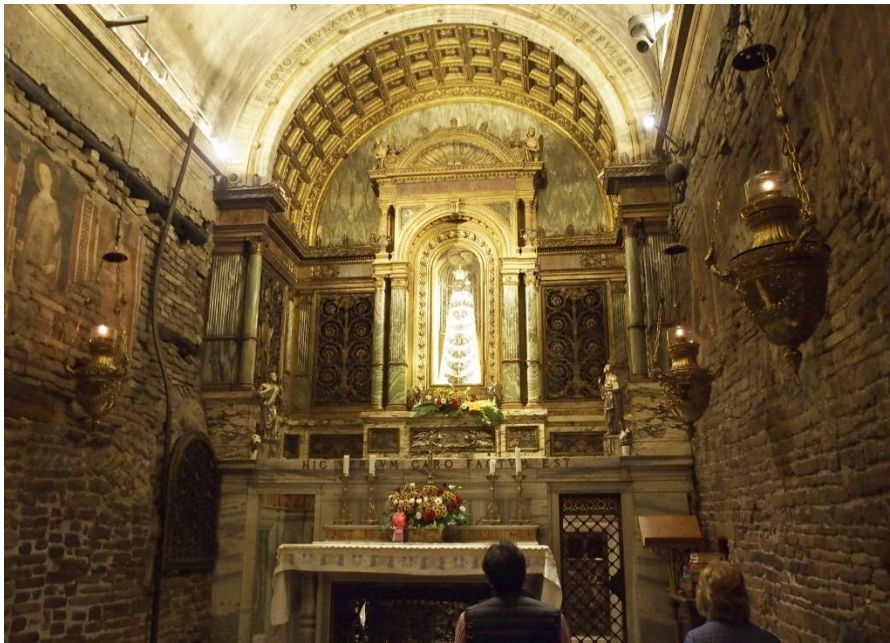
天井の装飾



イスラエルのナザレの聖家族の家 (図1)



黒いマリアは、外側に装飾衣を着けている。



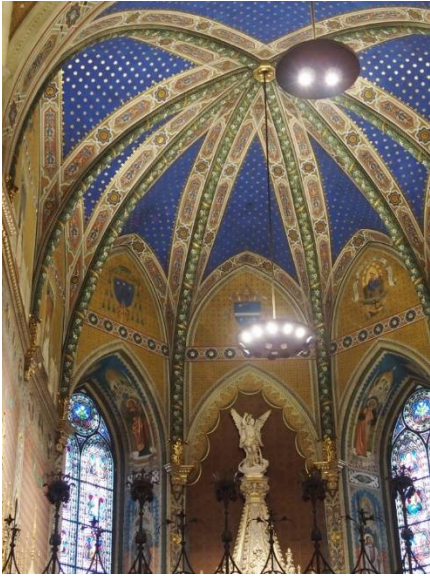
聖家族の家の壁で出来た聖堂

サンタ・カーザの壁を包む上張りにはイタリア・ルネサンス時代の名高い  
芸術家ブラマンテの大理石彫刻でおおわれている。(1507年ごろ)

伝説によれば、13世紀に十字軍が決定的にパレスチナから追放された時、聖家族の家の石造りの壁の部分(図1)が、イリリア(現在のクロアチアのテルサット)へ移された。その後天使たちが家をイタリアへ運んだ。その地がロレートであったという。

考古学的資料では、サンタ・カーザが構造及び石の材質からみても、イタリア・マルケ地方のものではないこと、石の上に刻み込まれた数多くの掻き絵もユダヤキリスト教的な根源を明白に示すもので、ナザレで発見されたものとよく似通っている、など興味深い。

幼子イエスを抱いた聖母像は、1921年の火災により焼失したが、ローマ教皇が修復を命じ、ヴァチカン庭園に植えられていたレバノン杉から新たなマリア像が作られた。





この門を入り聖堂へ向かう

ロレートの聖なる家と日本のカトリック信者には古くから関係があり、フランシスコ・ザビエルは聖なる家から日本への宣教に旅立った。

1582年（天正10年）九州のキリシタン大名大友宗麟の名代として4人の13～14歳の遣欧少年使節（伊東マンショら）がイエズス会の神父に連れられて渡欧、ローマ法皇にも謁見、評判を得て各地（ロレートも）を訪問し、歓迎を受けた。

4人は1590年にそろって帰国したが、日本はキリシタン禁令中で迫害にあい、一人はのちに棄教、後の3人は司祭になったが穴づりの刑で殉教したり、マカオへ追放等で死亡している。